



と し ょ か ん つ う し ん 図 書 館 通 信

トピックス

- 巻頭言「図書館と博物館の始まり」 岩崎 卓也
- 図書館と私「ハベルの図書館」 東澤 昭
- 生涯の一冊「名探偵カッレくん」 堤 康彦
- 当館所蔵三輪文庫への想い「水谷千尋」
- 講演子どもたちへ伝えたい「赤い鳥」
- 3月27日特別講演会・地域研究ゼミナール第8弾

第15号
季刊
2010

「図書館と博物館の始まり」

古代西アジア世界は現代につながる様々な事物の発祥の地でもあります。図書館と博物館もそのひとつです。図書館は、すでに紀元前2300年、今から4300年前のシリアのエブラ王の王宮にあつたことが、明らかになっています。この古い都は現在も発掘が続いていますが、王宮の台所には小麦を粉にする攪り石や煮込み鍋をかけるかまどが並び、食料貯蔵庫にはワインや油を入れた大甕がしつらえられていました。町は、アフラガスタン産のラピスラズリをエジプトへ輸出し、南メソポタミアにレバノン杉を運ぶなど、交易の中心として栄えていました。図書館と呼べる王宮文書庫は、木製の棚に30センチ角の大型

の粘土板文書がしつりと立てかけられていました。その数は2500枚にのぼり、解説作業が今も進められています。文字は南メソポタミアのシメール人が発明し、初めは神殿の物品の出納管理に用いられ、やがて神々や王の事跡が刻まれました。エブラでの大量の粘土板の発見は当時南メソポタミアの先進地域だけでなく、内陸のシリア地方にも経済活動の拠点がおり、文字を記録する社会が機能していたことを証明しました。

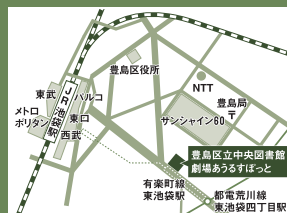
図書館はこの後も各地の古代遺跡の王宮でみかけられ、積極的に諸国の珍しい物語を王自らが集めたという記録も残されています。では、博物館はいつごろ出現したのでしょうか。現在のように古代の遺物を系統的に多くの

の人に展示する施設は近代社会成立以降のことですが、紀元前8000年頃のアシリア帝国の首都カルフでは、数百年にわたる美術作品が収められた倉庫がみつかりました。戦利品として略奪した品物は金属なら熔かされて再利用され、石製品は石材として転用されたりもしましたが、ここではおそらく鑑賞のためという意識で美術作品が集められていました。これらは王宮のあちこちに調度品として飾られたのでしよう。

今、古代王宮のごくく人々が暮らして、集う東地袋の一角に、2年間200万人を超す入場者があつた中央図書館が、私共古代オリエント博物館とは指図の間にあります。図書館と博物館が隣接する環境を生かし、市民の皆様ご期待に添う、新しい文化創造と情報発信をしていければと念じております。

1954年東京教育大学卒業。東京教育大学文学部助手、助教授を経て、筑波大学歴史人類学系教授として、多くの考古学学生を育てる。専門は日本の古墳時代であるが、西アジアでの多数の発掘調査をおこなった。日本考古学協会会長、西アジア考古学会会長を歴任。2006年から古代オリエント博物館館長を務める。

発行 ●豊島区立中央図書館
東京都豊島区東池袋四一五二
ライズアリーナビル四階 テー七〇八四四二
電話 ●〇三三九八三二七六六
FAX ●〇三三九八三二九〇四
ホームページ ●<http://www.library.toshima.tokyo.jp>
発行日 ●平成22年一月



R100
印刷用紙は100%再生紙を使用しています

新航路[14]

本を大切にね!



昨年、国連気候変動枠組条約第15回締約国会議（COP15）がコペンハーゲンで開催された。ご承知のとおり先進国と途上国との間では考え方の隔たりが大きく、足並みを揃えて温暖化防止に取り組むことの難しさが露呈した。しかし、このままではいけないと誰もが思っているのも事実である。私たちが出来ることからコツコツと取り組みたい。

考えてみれば、図書館の本は、とてもEcoである。1冊の本が、なんと貸出回数100回を超えることもある。でも、出版社や作家からみればうれしくないかもしれない。そんなEcoな図書館の運営を妨げる大きな要因、温暖化で言えばCO₂のようなものが2つある。一つは、長期末返却者の存在だ。電話督促はもちろんのこと、さまざまな督促方法を繰り返しているが、なかなか返却してもらえない。次に待っている人がたくさんいるので、一日

も早く返却してほしい。長期専有は厳禁だ。二つ目は、蔵書への書き込み、切り取りなどの破損、汚損である。その中でも明らかに故意に行われたものが多数存在する。絶対にやめてほしい。次の人が気持ちよく読むためにも丁寧な取り扱いをお願いしたい。

2008年秋の世界的な金融危機に端を発する景気の急速な落ち込みにより、区財政も非常に苦しくなっている。図書資料の購入費も例外ではない。限られた予算の中で、多くの皆さんに喜ばれる図書資料を購入したいと考えている。ほとんどの図書資料は最終的にリサイクル本として利用者の皆さんにお渡ししたり、廃棄（資源リサイクル）したりして、次の利用に供している。今後もEcoな図書館の運営を妨げる大きな要因2つの絶滅に皆さんのご協力をお願いいたします。

Current & Encounter

「都市と図書館」
豊島区図書館行政政策顧問

粕谷 一希

最近ではさまざまな図書館が増えた。森六本木ヒルズセンターの上層部分は、会員のための自由な図書館にうなっている。その思い切ったデザインに感心していたら、四谷の国際交流基金の一階部分も、洒落た雑誌コーナーになっている。アジア関係の英文雑誌が多い。来館者は熱心に新聞・雑誌を読みふけている。持ち出しは厳禁だが、館内では自由に好きな印刷物が読める。

わが豊島区の中央図書館も、毎日三千人の来館者とは驚きだが、東京の多様な文化施設のなかに置いてみると、それほど不思議ではない。都市は商店街やビジネス街やデパートやスーパー、コンビニといったレベルで街並みを変えるのは過去のことにうなづいた。本来、江戸時代の紅葉山文庫は、幕府から皇室に引き継がれて、東京の中心にある。東洋文庫から始まり、さまざまな個性的な文庫が存在し、金沢文庫や足利学校など共に、首都圏を形成している。神社、仏閣だけでなく、図書館もその都市の性格を物語っている。

人間は働く存在というイメージが古くなってしまい、朝からゆつくりと世界を楽しむ生活が広がってきているのだ。H・A・レントンは「人間の条件」の中で、人間の行為を分類して、労働、仕事、実践の三つにわけた。マルクス以来、戦後の労働三法に至るまで、労働の価値は社会問題の中心として強調されてきた。教育者までが労働者になってしまった。しかし、人間の仕事は宮大工をつつてみても、信仰心となる敬虔さと離れ難い。デザインとファクションと呼ばれる領域も、労働よりも仕事の世界に近い。

都市の地図は、改めて考え直し、書き直す必要がある。工場労働をモデルに考えられた労働は、もはや都市の中心部に存在しない。ビジネスも内容が変わった。マネー資本主義の次には、学校や図書館を中心に描かれる社会があつてよい。

生涯の一冊
(14)

『名探偵カレくん』
著者 アストリッド・リンダグリーン
訳者 尾崎 義
発行 朝岩波書店



NPO法人 芸術家と子どもたち
代表 堤 康彦

1965年生。慶應義塾大学経済学部卒業。10年間のサラリーマン生活ののち、NPOを立ち上げ、公立小学校等で現代アーティストのワークショップ型授業をする事業を展開。現在、にじがも創造舎(旧朝日中学校)を拠点に、区内保育園・幼稚園・小学校でも活動する。

子どもの時間・子どもの空間

小学6年生の頃だったろうか、この本を夢中で読んだのは。当時の私はサカキが大好きで読書は苦手だった。でもそんな私もスウェーデンの田舎町を舞台にカレくん少年とその仲間たちが繰り広げる冒険談に胸を躍らせて、一気に読み終えたことを覚えていた。読書の喜び、想像することの楽しさを知ったのはこの本が最初だった。が、しかし、先日、我娘に読ませようとして、約30年ぶりにこの本をばらめくってみると、物語の筋自体はあまり覚えていないことに気がついた。覚えていたのは、この物語全体に流れる、カレくん周辺のゆつたりとした時間(夏休みのひととき)と、田舎町の風景なのだ。

リンダグレンの素晴らしい描写は常に子どもの目線にある。裏庭の木にはランコがあり、隣の庭と板塀の板の隙間から行き来できたり、パン工場の屋根裏部屋が秘密基地だったり…。大

人に干渉されない、子どもたちだけの遊び、空間、時間。子どもは想像を発展させて身体を自然の中で存分に動かして遊び、成長する。大人はそんな子どもたちを少し引いたところから、愛情を持って眺めていければいい。この本にも、カレくんの親たちやヨルク巡査など素敵な大人たちが登場する。

さて、現代の子どもたちは果たして、子どもの時間や空間を持ち得ているだろうか。テレビゲームやケータイは、一面彼らの世界なのかもしれないが、それは大人があらかじめ用意したプログラミングされた世界であり、子どもたちが創りだす豊かな世界とは対極にあるような気がするのだ。自然は減り、子どもだけで屋外にすることが危険な社会。子どもたちから彼らの時間や空間を奪ってしまったのは、ほかならぬ私たち大人社会なのだ。子どもたちが、カレくんのような夏休みを過ごせるように、大人たちはいま立ち止まって、真剣に考えるときなのかもしれない。

図書館と私②

バベルの図書館

子どもの頃、私の住んでいた町には小さな図書館がひとつあるだけだった。およそ貧弱な蔵書だったはずだが、私にとってはとてつもなく大きな宇宙のように思えた。館内のすべての本を読みつくすことを夢見ながら、この世界には一体どれだけの本があるのだろうと考えては深いため息をついたものだ。

国内で発行されたすべての出版物を収集・保存することが義務づけられている国立国会図書館では、昨今の出版点数の激増や本の大型化等により、収容スペースが限界に近づいているとの報道があった。

片や、米国の25図書館が参加する世界最大の「バーチャル(仮想)図書館」が本格稼働するとのニュースもある。蔵書数は当初450万冊規模だが、1年半後には1千万冊超に拡大するという。

書籍デジタル化問題や出版物の電子配信にはさまざまな論議があるが、電子化をめぐる著作権のルールが整備されれば蔵書数はさらに飛躍的に拡大し、いずれは誰もがパソコンの窓を通じて世界中のあらゆる書物を閲覧することができるようになると思われる。

バーチャル図書館の出現は、蔵書の保存や収容スペースの確保に関する悩ましい問題を一挙に解決するものとなるのだろうか。

アルゼンチンの国立図書館長でもあった作家ホルヘ・ルイス・ボルヘスは、『バベルの図書館』という作品のなかで、あらゆる本を所蔵する無限の宇宙ともいべき図

豊島区文化商工部長 東澤 昭

子育て支援課長、介護保険課長、文化デザイン課長、総務課長を経て、平成21年4月から現職。



書館を夢想している。一方、その末尾に付された注釈では「広大な図書館は無用の長物である」と断じ、無限に薄いページの無限数からなる「一巻の書物」で充分なはずと記述する。

バーチャル図書館において、その一巻の書物は、一台のノートパソコンや携帯端末に取って代わられるのかも知れない。

さて、『バベルの図書館』が書かれてから5年後、ボルヘスの10歳年下で昨年生誕100年を迎えた中島敦は『文字禍』という小説で、まだ紙というものがなく、粘土板に硬筆で符号を彫りつけて書物とした古代メソポタミア時代の図書館を描いている。いわく「書物は瓦であり、図書館は瀬戸物屋の倉庫に似ていた」時代の話である。

ボルヘスと中島敦、この二人の作家が、地球の裏側でほぼ同時期に対照的な図書館の物語を夢想したことはとても興味深い。

デジタル記号と化した文字が縦横に飛び交う宇宙空間を巡り、私の記憶は40年ほどの時間を遡って再び小さな町の図書館へと辿り着く。

そこでは、捕虫網を片手に変わら帽子を被った子どもの私が、薄暗い図書館の片隅で、『ファブル昆虫記』やドリトル先生、シャーロック・ホームズの冒険譚に読みふけっている。

あの至福に満ちた読書の時間は再び訪れるのだろうか。

目白図書館が薦める

「元気になりたいときに読む本」



児童向け

書名 『ぼちぼち いこか』

著者名 マイク＝セイラー／作
ロバート＝グロスマン／絵
今江祥智／訳

出版社 偕成社

所蔵館 中央・池袋・目白

何をやっても上手くいかない時って誰でもありますよね？ そんな時には、この絵本を見ながらティーブレイク。カバくんの姿に癒され、元気が出てきますよ。「あなたは何になってみたい？」と語りかけながら、親子で一緒に楽しむこともできる1冊です。



書名

『神様の木に会いに行く』

ー神秘の巨樹・巨木・ご神木の聖地巡礼ー

著者名 高橋弘

出版社 東京地図出版

所蔵館 巣鴨・池袋・目白

都会の喧騒に疲れたら、大きな木に会いに行ってみるのはどうでしょうか？ 空に広がり伸びる枝を仰ぎ見て、深呼吸。

樹皮に直接触れて、長く生きてきた木の命を感じてみる。力強いエネルギーに、きっと励まされますよ。

豊島区では、雑司が谷・鬼子母神(法明寺)の美しいイチョウが紹介されています。今の時期は寒いけれど、えいやっと出かけてみれば、案外近くでその雄姿に出会えます。



書名 『ココンセツ!』

著者名 南々井梢

出版社 徳間書店

所蔵館 上池袋・目白

「キモい」という周りの誹謗中傷に耐えられず、キャプテンが全国大会に出場している際に、マイナーな高校男子新体操部をHIPHOP部に変えてしまおうとたくらむ部員たち。

果たして彼らのクーデターは成功するのでしょうか。おバカけど、一生懸命な彼らの姿にたくさんの笑いと元気をもらえます。

第3回としまものづくりメッセ

入場無料

～池袋副都心の産業見本市～

今回は、「産業」と「文化・環境」の融合による新たな価値の創造」をテーマに、都市の中の魅力ある企業が一堂に会します。事業者支援の第一人者である小出宗昭氏(富士市産業支援センター センター長)をお招きする交流会やロボット関連イベントなど多様な企画が目白押しです。皆様、是非ご来場ください。

【日 時】平成22年3月11日(木)～13日(土)
10時～17時(最終日は16時まで)

【会 場】サンシャインシティ 展示ホール A-2、A-3
所在地: 豊島区東池袋3-1-3
(ワールドインポートマート4F)

【主 催】としまものづくりメッセ実行委員会
※豊島産業協会、東京商工会議所豊島支部、
※豊島法人会、東京中小企業家同友会豊島支部、
※東京都中小企業振興公社、豊島区 他9機関

【問合せ】としまものづくりメッセ実行委員会事務局
(豊島区文化商工部生活産業課商工係内)
TEL: 03-5992-7089
FAX: 03-5992-7088
E-mail: A0029099@city.toshima.lg.jp
HP : http://www.toshima-messe.jp



自主研究グループ紹介

江戸・東京史研究会

中央図書館「地域研究セミナー」卒業生で、卒業後も自主的に研究活動されている皆様をご紹介します。



「江戸の町づくりを調べていたら、こんな事がわかりましたよ。今日はそれをお話しします」「私の現役時代、羽田空港の拡張工事の仕事にかかわった事がありました、それにより空港の大切さを知りました。今日はその苦労話をしましょう」、こんな江戸・東京の歴史の中で、それぞれの人が調べて得た知識や経験を毎月の例会で話し合いがされています。

江戸の町づくりでは、今の銀座の東の地区がかつては本境町と言われ、家を建てるのに必要な材木を加工する職人さん達の威勢の良い町であった事も知りました。また、江戸城や周辺の堀の建設に駆り出された各藩は、家康の意図した幕府へ対抗する力を削ぐと言う面では一応の効果があったと言えます。しかし、藩を統率する人材の江戸投入で藩自体の維持に支障が出て、急速それらの人々を国へ戻す工事も中断した事もあったようで、歴史は調べれば種々の事が分り面白い分野です。これらの座談をただ漫然と終るのではなく他の人の調査や意見も加え体系化して、最後はその「知る喜び」を他の方々へお伝えする発表会へ結びつける事を目標にしています。

この会は最初は地域研究セミナーで明治・大正の文学者や技術者を学習しまとめてゆく事を課題としてスタートしました。その内容は「菊池寛」や「鴎外、漱石、荷風、そしてサイデンステッカー」のタイトルで平成21年4月の発表会で報告しました。

会の代表は女性で、豊島区立郷土資料館友会の会のため役でもある小池陸子です。歴史や種々の事を調べる事の好きな男女6人の和気あいあいとした楽しい会です。

当館蔵

三輪文庫への想い 江戸から続く「知の狩人」の伝統文化

豊島区図書館専門研究員 水谷 千尋

大きな図書館のいくつかは、個人名を冠する書籍資料コレクションを所蔵する。東北大学図書館には漱石文庫、台東区立中央図書館には池波正太郎記念文庫があり、豊島区立中央図書館には三輪文庫がある。

三輪文庫は、当区高松町に居住していた歴史民俗研究家故三輪善之助さんより遺贈された 2,969点の蔵書・資料からなる。著書『庚申待と庚申塚』『子安観音と鬼子母神』(各昭和10年刊)・雑誌『武蔵野』寄稿論文・随筆の執筆用原典のほか、浅草や武蔵野一帯の板碑(板石塔婆)現地調査資料、仏教書、中世近世史・地誌・仏教民俗書、名家古文書集、江戸芸能書や『新編武蔵風土記稿』などの基本文献・事典類、『武蔵野』等のバック・ナンバー、未発表論文等々、今日では入手の難しいものが多い。

三輪さん自身の著書は、庚申信仰と子安観音・鬼子母神について、各々の宗教民俗文化をアジア伝来の広い視野から考察しており、『庚申待と庚申塚』では、庚申の日の講中寄合習俗を詳述して、戦後に複製版が出るほど、庚申信仰研究初期の業績として評価が高い。

三輪さんは、柳田国男氏が評価する民俗学先駆者山中共古の薫陶を得た。共古は、御家人出身、維新後静岡で牧師になり、傍ら静岡・山梨の民俗文化を実地調査した。のち牧師を辞し、東京で民俗学研究に没頭した。江戸小百科「砂弘」(岩波文庫)、『共古随筆』(平凡社刊)など多種の著作がある。三輪さんも御家人の末裔、共古精神を受け継ぎ、膨大な庚申塚や板碑など関東一円を訪れ、スケッチし、金石文の拓本をとり比較検討を行った。研究者仲間を集め、庚申懇話会々長を務めた。昭和40年代、『豊島を語る会』(三吉朋十会長)でも活躍した。

三輪さんの研究発表活動は雑誌『武蔵野』と切っても切れない。師山中共古とともに雑誌『武蔵野』の幹事同人として度々健康をふるった。92歳で亡くなった翌年1980年(昭和55年)5月発行の同誌(58巻2号)には三輪さんへの追悼特集が編まれている。

この雑誌は、1919年(大正8年)創刊で今日も続刊、江戸東京・武蔵野一帯の考古学や歴史民俗文化を研究する名門雑誌で、同人たちの江戸趣味随想をも載せており、「江戸東京学・武蔵野文化学に必須の総合的図書館」といっていい。バック・ナンバー復刻合本(第1期全19巻、原書房刊)は、昭和47年に刊行され、都内区立図書館の多くには、それらが所蔵されている。

発祥は、中国・蒙古・シベリアなど単独現地調査をなし一世を風靡した文化人類学者鳥居龍蔵が、文科理科の分野を問わず学際的に知見を交換し江戸東京学を創造しようと「武蔵野会」を組織し、麻布鳥居宅でのサロンを開き、史跡調査や展覧会を行い、会誌創刊を主導した。山中共古のほか法学の尾佐竹猛、文学の笹川臨風、林学の本多静六等々、各界の第一人者が同人に加わった。豊島区からは、「陸の富太郎(牧野)、海の金太郎」と謳われた、日本海藻学の鼻祖、江戸っ子理学士岡村金太郎も加わった。岡村は、浅草海苔の生態論考から「長閑(吉原雀)」と「吾妻八景」についてと随筆までも寄稿している。三輪さんも庚申塚調査報告等を寄稿し、また長閑随想をも寄稿している。

今でこそ、専門分野を超えて、「学際的」という言葉が定着し、大学組織も改変されてきたが、鳥居は、約一世紀以前からそれを強く意識し雑誌『武蔵野』で実現した。その先見力・実行力は高く評価されている。三輪さんの探究精神も学際的である。インド・中国・東南アジアへの歴史的視野と考古学・仏教民俗学など多角的な検討アクセスが、三輪文庫の書籍群から感得できる。

三輪文庫は、古い貴重本、未刊原稿と蔵本などもあり、館内でのみの閲覧に供している。

三輪さんは、雑司が谷霊園崇徳堂に納骨安置されている。

豊島区伝統工芸

豊島区伝統工芸保存会会員の皆様をご紹介します。

東京手描き友禅

上原 實さん



「たまのお休みときは何をされていますか。と伺ったところ、「旅行が好きなので、夫婦で旅行に行くことが多いですね」と言う愛妻家の上原さん。取材のとき、物柔らかに応じてくださったその優しさは、すべての作品に伝わっている気がした。

されている。

制作の傍ら、区内小学校の課外授業・子供たちに手描き友禅の素晴らしさを教える、また、地元消防団の活動を精力的に行うなど多方面で活躍されている。

「絹は生きものだから、永く大事にして欲しいですね」と言う上原さんは、展示会などに来られる友禅と着物を愛する人たちの声にも耳を傾ける。その声を生かし、タンスに大事にしまわれていた着物を熟練した技術で新たに修復する「着物の再生」や、絹地に友禅を施したスカーフ、ふろしき、数珠入れなどの「着物の新生」に力を入れている。それは、多くの人が手軽に手描き友禅の良さを味わってほしいという想いに通じている。

その研究に対する熱意がひしひしと感じられる。

「絹は生きものだから、永く大事にして欲しいですね」と言う上原さんは、展示会などに来られる友禅と着物を愛する人たちの声にも耳を傾ける。その声を生かし、タンスに大事にしまわれていた着物を熟練した技術で新たに修復する「着物の再生」や、絹地に友禅を施したスカーフ、ふろしき、数珠入れなどの「着物の新生」に力を入れている。それは、多くの人が手軽に手描き友禅の良さを味わってほしいという想いに通じている。

その研究に対する熱意がひしひしと感じられる。

「絹は生きものだから、永く大事にして欲しいですね」と言う上原さんは、展示会などに来られる友禅と着物を愛する人たちの声にも耳を傾ける。その声を生かし、タンスに大事にしまわれていた着物を熟練した技術で新たに修復する「着物の再生」や、絹地に友禅を施したスカーフ、ふろしき、数珠入れなどの「着物の新生」に力を入れている。それは、多くの人が手軽に手描き友禅の良さを味わってほしいという想いに通じている。

その研究に対する熱意がひしひしと感じられる。

「絹は生きものだから、永く大事にして欲しいですね」と言う上原さんは、展示会などに来られる友禅と着物を愛する人たちの声にも耳を傾ける。その声を生かし、タンスに大事にしまわれていた着物を熟練した技術で新たに修復する「着物の再生」や、絹地に友禅を施したスカーフ、ふろしき、数珠入れなどの「着物の新生」に力を入れている。それは、多くの人が手軽に手描き友禅の良さを味わってほしいという想いに通じている。

その研究に対する熱意がひしひしと感じられる。

「絹は生きものだから、永く大事にして欲しいですね」と言う上原さんは、展示会などに来られる友禅と着物を愛する人たちの声にも耳を傾ける。その声を生かし、タンスに大事にしまわれていた着物を熟練した技術で新たに修復する「着物の再生」や、絹地に友禅を施したスカーフ、ふろしき、数珠入れなどの「着物の新生」に力を入れている。それは、多くの人が手軽に手描き友禅の良さを味わってほしいという想いに通じている。

その研究に対する熱意がひしひしと感じられる。

「絹は生きものだから、永く大事にして欲しいですね」と言う上原さんは、展示会などに来られる友禅と着物を愛する人たちの声にも耳を傾ける。その声を生かし、タンスに大事にしまわれていた着物を熟練した技術で新たに修復する「着物の再生」や、絹地に友禅を施したスカーフ、ふろしき、数珠入れなどの「着物の新生」に力を入れている。それは、多くの人が手軽に手描き友禅の良さを味わってほしいという想いに通じている。

その研究に対する熱意がひしひしと感じられる。

「絹は生きものだから、永く大事にして欲しいですね」と言う上原さんは、展示会などに来られる友禅と着物を愛する人たちの声にも耳を傾ける。その声を生かし、タンスに大事にしまわれていた着物を熟練した技術で新たに修復する「着物の再生」や、絹地に友禅を施したスカーフ、ふろしき、数珠入れなどの「着物の新生」に力を入れている。それは、多くの人が手軽に手描き友禅の良さを味わってほしいという想いに通じている。

その研究に対する熱意がひしひしと感じられる。

「絹は生きものだから、永く大事にして欲しいですね」と言う上原さんは、展示会などに来られる友禅と着物を愛する人たちの声にも耳を傾ける。その声を生かし、タンスに大事にしまわれていた着物を熟練した技術で新たに修復する「着物の再生」や、絹地に友禅を施したスカーフ、ふろしき、数珠入れなどの「着物の新生」に力を入れている。それは、多くの人が手軽に手描き友禅の良さを味わってほしいという想いに通じている。

その研究に対する熱意がひしひしと感じられる。

「絹は生きものだから、永く大事にして欲しいですね」と言う上原さんは、展示会などに来られる友禅と着物を愛する人たちの声にも耳を傾ける。その声を生かし、タンスに大事にしまわれていた着物を熟練した技術で新たに修復する「着物の再生」や、絹地に友禅を施したスカーフ、ふろしき、数珠入れなどの「着物の新生」に力を入れている。それは、多くの人が手軽に手描き友禅の良さを味わってほしいという想いに通じている。

その研究に対する熱意がひしひしと感じられる。

「絹は生きものだから、永く大事にして欲しいですね」と言う上原さんは、展示会などに来られる友禅と着物を愛する人たちの声にも耳を傾ける。その声を生かし、タンスに大事にしまわれていた着物を熟練した技術で新たに修復する「着物の再生」や、絹地に友禅を施したスカーフ、ふろしき、数珠入れなどの「着物の新生」に力を入れている。それは、多くの人が手軽に手描き友禅の良さを味わってほしいという想いに通じている。

その研究に対する熱意がひしひしと感じられる。

「絹は生きものだから、永く大事にして欲しいですね」と言う上原さんは、展示会などに来られる友禅と着物を愛する人たちの声にも耳を傾ける。その声を生かし、タンスに大事にしまわれていた着物を熟練した技術で新たに修復する「着物の再生」や、絹地に友禅を施したスカーフ、ふろしき、数珠入れなどの「着物の新生」に力を入れている。それは、多くの人が手軽に手描き友禅の良さを味わってほしいという想いに通じている。

その研究に対する熱意がひしひしと感じられる。

「絹は生きものだから、永く大事にして欲しいですね」と言う上原さんは、展示会などに来られる友禅と着物を愛する人たちの声にも耳を傾ける。その声を生かし、タンスに大事にしまわれていた着物を熟練した技術で新たに修復する「着物の再生」や、絹地に友禅を施したスカーフ、ふろしき、数珠入れなどの「着物の新生」に力を入れている。それは、多くの人が手軽に手描き友禅の良さを味わってほしいという想いに通じている。

その研究に対する熱意がひしひしと感じられる。

「絹は生きものだから、永く大事にして欲しいですね」と言う上原さんは、展示会などに来られる友禅と着物を愛する人たちの声にも耳を傾ける。その声を生かし、タンスに大事にしまわれていた着物を熟練した技術で新たに修復する「着物の再生」や、絹地に友禅を施したスカーフ、ふろしき、数珠入れなどの「着物の新生」に力を入れている。それは、多くの人が手軽に手描き友禅の良さを味わってほしいという想いに通じている。

その研究に対する熱意がひしひしと感じられる。

「絹は生きものだから、永く大事にして欲しいですね」と言う上原さんは、展示会などに来られる友禅と着物を愛する人たちの声にも耳を傾ける。その声を生かし、タンスに大事にしまわれていた着物を熟練した技術で新たに修復する「着物の再生」や、絹地に友禅を施したスカーフ、ふろしき、数珠入れなどの「着物の新生」に力を入れている。それは、多くの人が手軽に手描き友禅の良さを味わってほしいという想いに通じている。

その研究に対する熱意がひしひしと感じられる。

「絹は生きものだから、永く大事にして欲しいですね」と言う上原さんは、展示会などに来られる友禅と着物を愛する人たちの声にも耳を傾ける。その声を生かし、タンスに大事にしまわれていた着物を熟練した技術で新たに修復する「着物の再生」や、絹地に友禅を施したスカーフ、ふろしき、数珠入れなどの「着物の新生」に力を入れている。それは、多くの人が手軽に手描き友禅の良さを味わってほしいという想いに通じている。

その研究に対する熱意がひしひしと感じられる。

「絹は生きものだから、永く大事にして欲しいですね」と言う上原さんは、展示会などに来られる友禅と着物を愛する人たちの声にも耳を傾ける。その声を生かし、タンスに大事にしまわれていた着物を熟練した技術で新たに修復する「着物の再生」や、絹地に友禅を施したスカーフ、ふろしき、数珠入れなどの「着物の新生」に力を入れている。それは、多くの人が手軽に手描き友禅の良さを味わってほしいという想いに通じている。

その研究に対する熱意がひしひしと感じられる。

「絹は生きものだから、永く大事にして欲しいですね」と言う上原さんは、展示会などに来られる友禅と着物を愛する人たちの声にも耳を傾ける。その声を生かし、タンスに大事にしまわれていた着物を熟練した技術で新たに修復する「着物の再生」や、絹地に友禅を施したスカーフ、ふろしき、数珠入れなどの「着物の新生」に力を入れている。それは、多くの人が手軽に手描き友禅の良さを味わってほしいという想いに通じている。

その研究に対する熱意がひしひしと感じられる。

「絹は生きものだから、永く大事にして欲しいですね」と言う上原さんは、展示会などに来られる友禅と着物を愛する人たちの声にも耳を傾ける。その声を生かし、タンスに大事にしまわれていた着物を熟練した技術で新たに修復する「着物の再生」や、絹地に友禅を施したスカーフ、ふろしき、数珠入れなどの「着物の新生」に力を入れている。それは、多くの人が手軽に手描き友禅の良さを味わってほしいという想いに通じている。

その研究に対する熱意がひしひしと感じられる。

「絹は生きものだから、永く大事にして欲しいですね」と言う上原さんは、展示会などに来られる友禅と着物を愛する人たちの声にも耳を傾ける。その声を生かし、タンスに大事にしまわれていた着物を熟練した技術で新たに修復する「着物の再生」や、絹地に友禅を施したスカーフ、ふろしき、数珠入れなどの「着物の新生」に力を入れている。それは、多くの人が手軽に手描き友禅の良さを味わってほしいという想いに通じている。

その研究に対する熱意がひしひしと感じられる。

「絹は生きものだから、永く大事にして欲しいですね」と言う上原さんは、展示会などに来られる友禅と着物を愛する人たちの声にも耳を傾ける。その声を生かし、タンスに大事にしまわれていた着物を熟練した技術で新たに修復する「着物の再生」や、絹地に友禅を施したスカーフ、ふろしき、数珠入れなどの「着物の新生」に力を入れている。それは、多くの人が手軽に手描き友禅の良さを味わってほしいという想いに通じている。

その研究に対する熱意がひしひしと感じられる。

「絹は生きものだから、永く大事にして欲しいですね」と言う上原さんは、展示会などに来られる友禅と着物を愛する人たちの声にも耳を傾ける。その声を生かし、タンスに大事にしまわれていた着物を熟練した技術で新たに修復する「着物の再生」や、絹地に友禅を施したスカーフ、ふろしき、数珠入れなどの「着物の新生」に力を入れている。それは、多くの人が手軽に手描き友禅の良さを味わってほしいという想いに通じている。

その研究に対する熱意がひしひしと感じられる。

「絹は生きものだから、永く大事にして欲しいですね」と言う上原さんは、展示会などに来られる友禅と着物を愛する人たちの声にも耳を傾ける。その声を生かし、タンスに大事にしまわれていた着物を熟練した技術で新たに修復する「着物の再生」や、絹地に友禅を施したスカーフ、ふろしき、数珠入れなどの「着物の新生」に力を入れている。それは、多くの人が手軽に手描き友禅の良さを味わってほしいという想いに通じている。

その研究に対する熱意がひしひしと感じられる。

「絹は生きものだから、永く大事にして欲しいですね」と言う上原さんは、展示会などに来られる友禅と着物を愛する人たちの声にも耳を傾ける。その声を生かし、タンスに大事にしまわれていた着物を熟練した技術で新たに修復する「着物の再生」や、絹地に友禅を施したスカーフ、ふろしき、数珠入れなどの「着物の新生」に力を入れている。それは、多くの人が手軽に手描き友禅の良さを味わってほしいという想いに通じている。

その研究に対する熱意がひしひしと感じられる。

「絹は生きものだから、永く大事にして欲しいですね」と言う上原さんは、展示会などに来られる友禅と着物を愛する人たちの声にも耳を傾ける。その声を生かし、タンスに大事にしまわれていた着物を熟練した技術で新たに修復する「着物の再生」や、絹地に友禅を施したスカーフ、ふろしき、数珠入れなどの「着物の新生」に力を入れている。それは、多くの人が手軽に手描き友禅の良さを味わってほしいという想いに通じている。

その研究に対する熱意がひしひしと感じられる。

「絹は生きものだから、永く大事にして欲しいですね」と言う上原さんは、展示会などに来られる友禅と着物を愛する人たちの声にも耳を傾ける。その声を生かし、タンスに大事にしまわれていた着物を熟練した技術で新たに修復する「着物の再生」や、絹地に友禅を施したスカーフ、ふろしき、数珠入れなどの「着物の新生」に力を入れている。それは、多くの人が手軽に手描き友禅の良さを味わってほしいという想いに通じている。

その研究に対する熱意がひしひしと感じられる。

「絹は生きものだから、永く大事にして欲しいですね」と言う上原さんは、展示会などに来られる友禅と着物を愛する人たちの声にも耳を傾ける。その声を生かし、タンスに大事にしまわれていた着物を熟練した技術で新たに修復する「着物の再生」や、絹地に友禅を施したスカーフ、ふろしき、数珠入れなどの「着物の新生」に力を入れている。それは、多くの人が手軽に手描き友禅の良さを味わってほしいという想いに通じている。

その研究に対する熱意がひしひしと感じられる。

お店探訪 ～手打ちうどん 友美津～

店主 友光 秀樹さん



店内でゆっくりおくろみ頂き、図書館で心を潤したおからだを、おいしい「手打ちうどん」で温められることをおすすめ申し上げます。

池袋東口に長い間「手打ちうどん」の店を構えており、「友美津」でございます。もと三越デパート、現在のヤマダ電機LABI日本総本店のちょうど裏手にあり、ごひいきをいただいております。「手打ちうどん」の「友美津」の店をこへ出してから31年になります。池袋との縁はもともと古く、昭和7年、東口に父が店を出したところからのものです。現在のバルコ近くで、すくそに交番のあったところをよく覚えていますが、戦前のことは少し記憶しているくらいです。父はそこを構えておりました。「手打ちうどん」の店は私の代になつてからで、料理屋をしようとした私の叔母の店の料理人から指導してもらったものです。それから、工賃に工夫を重ねて参りました。冬の今のおすめは、からだを温まる「味噌煮込みうどん」が評判をいただいております。京都が京校という名代の味噌をベースにブレンドし、秘伝の味つけをしたもので、「旨味をお待ち申し上げております。」

読書と手打ちうどん

池袋東口に長い間「手打ちうどん」の店を構えており、「友美津」でございます。もと三越デパート、現在のヤマダ電機LABI日本総本店のちょうど裏手にあり、ごひいきをいただいております。「手打ちうどん」の「友美津」の店をこへ出してから31年になります。池袋との縁はもともと古く、昭和7年、東口に父が店を出したところからのものです。現在のバルコ近くで、すくそに交番のあったところをよく覚えていますが、戦前のことは少し記憶しているくらいです。父はそこを構えておりました。「手打ちうどん」の店は私の代になつてからで、料理屋をしようとした私の叔母の店の料理人から指導してもらったものです。それから、工賃に工夫を重ねて参りました。冬の今のおすめは、からだを温まる「味噌煮込みうどん」が評判をいただいております。京都が京校という名代の味噌をベースにブレンドし、秘伝の味つけをしたもので、「旨味をお待ち申し上げております。」

東京音楽大学付属図書館とのコラボレーション企画開催!!

子どもたちへ伝えたい『赤い鳥』

平成22年2月13日(土)午後2時～3時30分

【会場】東京音楽大学(豊島区南池袋3-4-5)

【募集】100名 【参加費】無料 【締切り】1月28日(必着)

参加希望の方は、本誌4頁右下の申し込み方法をご覧ください。

第一部 講演

童話雑誌『赤い鳥』にゆかりの童謡について

講師:東京音楽大学民族音楽研究所

専任研究員 甲田 潤氏

第二部 合唱団による合唱

出演:Chor June(コール・ジュン)

甲田 潤氏

東京音楽大学作曲科卒業。同大学研究科修了。日本作曲家協議会、日本現代音楽協会各会員、東京音楽大学付属高等学校兼講師。



子どもの読書活動推進に関する講習会 受講者募集

「昔話とは何か～いいお話を選ぶために～」

内容 昔話の型など基本的なことに加え、複数再話がある場合にどういった基準で本を選ぶか、また読み聞かせやストーリーテリングなどを行う上でのポイントなどを、より具体的な内容もあわせて小澤先生に講演していただきます。

講師 小澤 俊夫(おざわ としお)氏

*日本各地で昔ばなし大学を主宰。季刊誌「子どもと昔話」や「子どもに贈る昔ばなし」シリーズ(小澤昔ばなし研究所)の刊行にも力を入れ、昔話の研究と語りとの現場を結びつけることに努めている。2007年ヨーロッパ・メルヒエ賞受賞。著書に「昔話からのメッセージ ろばの子」(小澤昔ばなし研究所)、「昔話の語法」(福音館書店)等。

- 日時 平成22年2月3日(水)午前10時30分～12時30分
- 会場 あうるすぽっと 会議室B(池袋池袋4-5-2 ライズアリーナビル3階)
- 費用 無料
- 募集 70名
- 対象 豊島区内の幼稚園・小学校・児童館など教育・福祉施設で読み聞かせボランティアをしている方。また、子どもたちに向けた読み聞かせに関心のある豊島区民の方。
- 申込み 平成22年1月13日(水)午前10時より 中央図書館カウンターまたは電話にて申し込み(先着順に受講者決定。定員に達し次第締め切り)
- 保育 あり(未就学児5名程度。事前申込が必要。先着順。)
- 問い合わせ 豊島区立中央図書館 児童・YAグループ 電話 03-3983-7861

地域研究ゼミナール 受講生募集

豊島区に関係の深いテーマについて、図書館の資料を活用しながら、自分の研究テーマを探すゼミナールを開講します。

第8弾は「幕末のとしま」(全10回)

※全10回通しての申込みになります。各回ごとの申込みはできません。

講師 豊島区図書館行政政策顧問 粕谷 一希(かすや かずき)氏
豊島区図書館専門研究員 伊藤 榮洪(いとう えいこう)氏
豊島区図書館専門研究員 水谷 千尋(みずたに ちひろ)氏

日程 第1回 3月20日(土)「蚕社の獄(予定)」講師:伊藤 榮洪
第2回 4月17日(土)「成島柳北ほか(予定)」講師:粕谷 一希
第3回 5月15日(土)「彰義隊の人物像(予定)」講師:水谷 千尋
第4回〜10回は、毎月第3土曜日に開講
※第4回以降の講師(各回交互に担当する予定)及び講義内容は決まり次第、受講生にお知らせします。

時間 いずれも午前10時〜正午

会場 中央図書館会議室

費用 1,000円(全10回:資料代等)

※会場への交通費は各自負担です。

募集 30名

※ゼミナールの受講を希望される方は、右下の申し込み方法をご覧ください。



伊藤 榮洪氏



粕谷 一希氏



水谷 千尋氏

中央図書館 特別講演会

平成22年3月27日(土)午後2時〜3時30分

会場「あうるすぽっと」会議室B

募集100名

参加費 無料

講演会の受講を希望される方は、右下の申し込み方法をご覧ください。

「児童文学作家 石井桃子を語る」

『ノンちゃん雲に乗る』『ピーターラビット』『うさこちゃん』など編集者、翻訳者として活躍。日本の文学界に多大な貢献をし、2008年に101歳の生涯を終えた児童文学作家、石井桃子さんについて戦前の活動などを中心に、読売新聞の尾崎真理子さんにお話していただきます。

講師 読売新聞東京本社 文化部長

尾崎 真理子氏

プロフィール

1959年宮城県生まれ。青山学院大学文学部卒業後、読売新聞に入社。1992年より、文化部長として「文芸時評」欄をおよそ10年担当。作家へのインタビューにも定評がある。現在、読売新聞東京本社 文化部長。著書に「大江健三郎作家自身を語る」(新潮社)、「現代日本の小説」(ちくまプリマー新書)、「瀬戸内寂聴に聞く寂聴文学史」(中央公論新社)。

※特別講演会には、手話通訳がつかます。



図書館からのお知らせ

図書館 イベント情報

◆児童・あかちゃんおはなし会

毎週、おはなし会を開催し本の読み聞かせなどイベントを行っています。遊びに来てください。

主催/会場	おはなし会開催日		スペシャルイベント		
	幼児・小学生	あかちゃん	1月	2月	3月
中央図書館 児童コーナー	日曜日 午後2時	最終日曜日 午前11時	★10日・おはなしこうさく会 午後2時 ★31日・豊島区親子読書連絡会によるおはなし会 午後2時	★7日・おはなしこうさく会 午後2時 ★28日・虹のポケットによるおはなし会 午後2時	★7日・おはなしこうさく会 午後2時
駒込図書館 (駒込地域文化創造館)	土曜日 午後3時	—	—	—	★5日・こどもえいがかい 午後3時 映画2本(タイトルは未定)
巣鴨図書館 地下会議室	水曜日 午後3時	最終水曜日 午前11時	★6日・ほんのじかん カルタ大会 午後3時	★17日・ほんのじかん 工作(おひなさま) 午後3時 ★24日・ほんのじかん スライド 午後3時	★3日・ほんのじかん パネル 午後3時 ★31日・すがもこどもえいがかい 午後3時 「花いっぱいになあれ」(12分) 「ピーターと狼」(14分)
上池袋図書館 おはなしのへや (※は地下ホール)	水曜日 午後3時	最終水曜日 午前11時※	★6日・さくらんぼ カルタ大会 午後3時(※) ★27日・さくらんぼえいがかい 午後3時(※) 「トッピーと森の仲間たち」(19分) 「ミッキーマウスとフルート」(10分)	—	★24日・さくらんぼえいがかい 午後3時(※) 「ゆうかなん十人の兄弟」 「ドナルドダックとゆかいなペンギン」
池袋図書館 ワークルーム	土曜日 午後2時	—	★9日・たんぼぼカルタかい 午後2時 ★23日・たんぼぼえいがかい 午後2時 「わらわつの中の神様」(23分)	★27日・たんぼぼえいがかい 午後2時 「竹取物語」(31分)	★27日・たんぼぼえいがかい 午後2時 「赤毛のアン」(42分)
目白図書館 地下区民集会所	水曜日 午後3時	第1水曜日 午前11時	★6日・あいえおはなしかい 新春おはなし会 午後3時 ★27日・めじろこどもシアター 「雪渡り」(23分)	★24日・かきくけこうさくかい 午後3時 絵本の読み聞かせと工作 「ゆらゆらおひなさま」	★24日・めじろこどもシアター 「おこんじょうり」(25分)
千早図書館 視聴覚室	水曜日 午後3時30分	水曜日 午前10時30分	—	—	—

日程・会場等が変更になることがあります。事前にお問合せください。

千早図書館イベント企画

申込不要。当日、千早図書館へ直接お越しください。※当日先着50名、参加費無料

◆1月例会

日時 平成22年1月16日(土)午前10時〜正午

会場 千早図書館 2階 視聴覚室

講演 「読書とはじめ」

講師 小野 重典(おの しげのり)氏

小野さんは昭和3年生まれの地元(要町)出身の方です。昭和20年の終戦により軍事教育から解放されましたが、文化教養の欠乏を痛感され、猛然として文学書、哲学書の読破に取組まれました。

このような読書遍歴から何が得られたか、またその後の人生にいかに関与したか等について熱く語られます。

◆2月例会

日時 平成22年2月20日(土)午前10時〜正午

会場 千早図書館 2階 視聴覚室

口演 「落語会」

三遊亭 窓輝(さんゆうてい そうき)氏

演題 当時のお楽しみ
2月の「千早進歩自由夢」は、毎年恒例の「落語会」を企画しました。

今回は、豊島区出身の若手落語家の三遊亭窓輝さんをお願いしました。

出し物は当日のお楽しみです。

◆3月例会

日時 平成22年3月20日(土)午前10時〜正午

会場 千早図書館 2階 視聴覚室

講演 「東京大空襲を語り継ぐ」

講師 善方 一夫(よしかた かずお)氏

(人の史の語り部)

内容

- 私の少年期の語りを主題に「さくらの会」が制作した紙芝居の上演(朗読・さくらの会)
- 敗戦の年、急増した特殊焼夷弾によるアメリカ空軍の地域爆撃と東京下町・山の手の空襲が庶民にもたらした悲惨さを語る事実。
- 質疑応答(参加者の方々の声もぜひお聞かせください)

図書館 カレンダー

編集後記

2010年がスタートしました。今年もよろしくお願ひいたします。さて、ある世論調査によると過去1年間に公共図書館を利用したことがない人が7割にも上るという結果が載っていました。今年も「国民読書年」です。多くの人に読書のすばらしさ、大切さを知ってもらいたいため、「お知り合いで図書館を利用したことがない人いたら、一緒に図書館へと誘ってみませんか。(あ)

巣鴨図書館
臨時休館のお知らせ

老朽化電気設備更新工事のため、平成22年1月18日〜2月1日まで休館します。

休館中は、館内の利用はできません。なお、巣鴨図書館正面入口で平成22年1月19日〜31日の間(22日、25日を除く)、臨時窓口を開設します。開設時間は、9時〜16時です。

実施する業務は、予約資料の貸出、資料の返却・予約・貸出延長です。詳細は、巣鴨図書館にお問い合わせください。

平成22年2月2日から通常どおり開館します。

中央図書館											
開館時間 平日 午前10時〜午後10時 土日祝 午前10時〜午後6時						開館時間 平日 午前9時〜午後7時 土日祝 午前9時〜午後5時					
日	月	火	水	木	金	日	月	火	水	木	金
土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土	土
1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	25	26	27	28	29	30
31						31					
1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	25	26	27	28	29	30
31						31					

○は土日祝 ■は休館日

雑司が谷図書貸出コーナー

開館時間
平日 午前10時〜午後7時
土日祝 午前10時〜午後5時

開館時間
平日 午前9時〜午後7時
土日祝 午前9時〜午後5時

開館時間
平日 午前10時〜午後7時
土日祝 午前10時〜午後5時

開館時間
平日 午前9時〜午後7時
土日祝 午前9時〜午後5時

開館時間
平日 午前10時〜午後7時
土日祝 午前10時〜午後5時

開館時間
平日 午前9時〜午後7時
土日祝 午前9時〜午後5時

開館時間
平日 午前10時〜午後7時
土日祝 午前10時〜午後5時

開館時間
平日 午前9時〜午後7時
土日祝 午前9時〜午後5時

開館時間
平日 午前10時〜午後7時
土日祝 午前10時〜午後5時

開館時間
平日 午前9時〜午後7時
土日祝 午前9時〜午後5時

開館時間
平日 午前10時〜午後7時
土日祝 午前10時〜午後5時

開館時間
平日 午前9時〜午後7時
土日祝 午前9時〜午後5時

開館時間
平日 午前10時〜午後7時
土日祝 午前10時〜午後5時

開館時間
平日 午前9時〜午後7時
土日祝 午前9時〜午後5時

開館時間
平日 午前10時〜午後7時
土日祝 午前10時〜午後5時

開館時間
平日 午前9時〜午後7時
土日祝 午前9時〜午後5時

開館時間
平日 午前10時〜午後7時
土日祝 午前10時〜午後5時

開館時間
平日 午前9時〜午後7時
土日祝 午前9時〜午後5時

開館時間
平日 午前10時〜午後7時
土日祝 午前10時〜午後5時

開館時間
平日 午前9時〜午後7時
土日祝 午前9時〜午後5時

開館時間
平日 午前10時〜午後7時
土日祝 午前10時〜午後5時

開館時間
平日 午前9時〜午後7時
土日祝 午前9時〜午後5時

申し込み方法

- ※ひとつの行事に重複して応募された場合、2枚目以降は無効です。
- ※応募者多数の場合は抽選となりますので予めご了承ください。
- ※いずれも申込期限後1週間程度で当落の通知をします。
- ※ゼミナールと講演会の両方をご希望される場合は、別々に申込みください。

往復ハガキかEメールまたはファクスで下記の①〜⑤を記入し、送付先へお送りください。

(1) ご希望のゼミナール又は講演名

① 子どもたちへ伝えたい「赤い鳥」

② 地域研究ゼミナール「幕末のとしま」

③ 3/27「特別講演会」

(2) 郵便番号

(3) 住所

(4) 氏名(ふりがな)

(5) 電話番号

◆申込期限

① 子どもたちへ伝えたい「赤い鳥」1月28日(木)必着

② 地域研究ゼミナール「幕末のとしま」3月1日(月)必着

③ 3/27「特別講演会」3月8日(月)必着

◆送付先

① 往復ハガキ〒170-8442 豊島区東池袋4-5-2

ライズアリーナビル5階

中央図書館 企画調整グループ

② Eメール:AO027900@city.toshima.lg.jp

③ ファクス:03-3983-9904